

2018年12月10日

報道関係者各位

株式会社東急コミュニティー

マンション・ビル工事現場でIoTを活用した支援体制を構築
「スマートグラス」活用により更なる品質向上を図る
工事安全担当者の育成・省力化

株式会社東急コミュニティー（本社：東京都世田谷区、社長：雑賀 克英）は、マンションやビルの工事現場における品質向上を目的として、遠隔地における工事現場の安全巡視等に遠隔管理システムとスマートグラスを組み合わせた支援体制を構築いたしましたのでお知らせいたします。

・スマートグラスを用いた現場支援体制とは



スマートグラスは、メガネをかける要領で頭部に装着して使用するウェアラブルデバイスで、以下の機能を搭載しています。

- 実際に見ている光景に重ねて、レンズ上に建物情報等を投影する機能
- 搭載されているカメラにより、装着者が見ている映像・音声を受信者と共有する機能
- 複数拠点とのテレビ会議機能

工事現場で工事安全担当者が現場巡視時に着用することにより、両手を空けた状態で安全に建物・設備情報を参照しながら作業できるほか、建物から離れた本社部門や各営業事業所の熟練技術者とリアルタイムで現場情報を共有し、適切なアドバイスを即時に反映することが可能となりました。

・現場安全担当者育成により、更なる品質向上を目指す

既に九州支店を始めとする地方支店5箇所にて実証実験を行い、2019年4月までに、10拠点に設置し、本格展開する予定です。

工事安全担当者が、実際の工事現場で熟練技術者の助言を反映させていくことは、若手工事安全担当者の育成・技術伝承にもつながります。また、労働人口が減少する中、省力化も図ることができます。スマートグラスを活用することにより、現場と事務所での情報共有・確認作業の軽減や、遠隔地までの移動時間解消、複数名の立会いを必要とした作業の人数軽減など、品質を維持しつつ省力化を実現いたします。

今後もお客様に対し、より高水準なサービス提供に向け工夫を継続してまいります。

【リリースに関するお問合せ】

経営企画部広報センター（担当：高村・伊藤）

※このニュースリリースは、国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会にお配りしています。